

入間川地区自治会

入間川地区自治会では、入間川中学校区の自治会長全員で、餅つき大会のお手伝いをしました。この行事は、中学校を巣立っていく3年生に対して前途を祝す気持ちを伝え、在校生の学校生活を応援するためにPTAの学年委員会や青少年育成入間川地域会議、先生が中心となって、長年続いている行事です。

当日は、青空の下でもち米を蒸かす人、臼で餅をつく人など役割分担をしながら、とてもにぎやかな雰囲気の中で行われました。昨年までは、地域の自治会長と数名の自治会員の参加でしたが、今年は人数も増えて会話も一層弾み、良い情報交換の場にもなって、みんなで楽しい一日を過ごすことができました。



わかるかな？ 今月の写真クイズ

写真は、今月の広報さやまに掲載してある写真の一部を拡大したものです。何ページの何の写真でしょうか？

解答をお寄せいただいた正解者の中から、抽選で5名に記念品を差し上げます。官製はがきで広報課宛お送りください。
締め切り5月31日(当日消印有効)

4月10日号の答え

14ページのひとまち写真館で、東中学校が会場だった全国アンサンブルコンテストの写真でした。



表紙の写真

4月29日(みどりの日)市役所の駐車場で恒例となった「狭山新茶と花いっぱいまつり」が行われ、多くの人が訪れました。新茶の味が一番早く楽しめるこの日は、茶摘体験や手揉み茶の製造実演など、茶どころ狭山ならではの催しと、色とりどりに咲いた花々で、春の香りがいっぱい詰まった1日になりました。

池原 昭治の

さやまのあそび

第108話



動物にまつわる昔話 その2

動物を題材にして、狭山市で語られた貴重な昔話を紹介します。

仲の悪いにわとりとカラス

「昔ねえ、にわとりが紺屋職人染物屋で、カラスがお客さんでね...そのころ、カラスは大変なおしゃれでね、いつも真っ白い着物を着て飛んでいたんだって。ある日のこと、

カラスがにわとりの所へ来て「色よく染めておくれ」と頼んできたんだってさ...そこでね、にわとりが「とびつきりおしやれな色ですよ」と言って、真っ黒に染めたんだってさ。ところがカラスは怒りだし、そのまま染め賃を払わずに行ってしまうんだって...これにはにわとりも大いに怒り、それからカラスが飛ぶのを見ては、空を見上げて「コケコッコー」と鬨の声を上げて、染め賃を早く払えと騒ぐんだって。」

前号に続いてご紹介するのは、奥富の前田に生まれ、大芦に嫁いだ生粋の狭山っ子の故・佐藤つるさんが生前に語られた、本格的な昔話です。これは、「フクロウ紺屋」の類話だと思われまふ。つるさんのお話では、にわとりとカラスが登場します。奥富地区は、「川越藩の穀倉地帯」と言われたほど水田が広がっていたため、深い山らしきものは無く、フクロウもいなかったと思われまふ。そんなところから、身近にいるにわとりにお話が転化されたのではないのでしょうか。

